

昭和十一年

福井縣統計書

第四編

(警察衛生等)

福井縣

緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムガ爲毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和十一年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應ゼシムル所アラムトス。

昭和十三年三月

福井縣總務部

昭和十一年福井縣統計書 第四編

凡 例

本編ハ昭和十一年又ハ昭和十一年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又己ムヲ得ザルモノハ昭和十年若ハ昭和十年度以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同ウシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「 \square 」小數アルトキハ一位ニ「 \cdot 」ヲ附シ不詳ノモノハ「 $?$ 」一位ニ滿タサルモノハ「 0 」全ク無キモノハ「 $-$ 」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和十一年 福井縣統計書

第四編 (警察衛生等) 目次

警 察	
總 說	1
1 警察部職員(現員)	3
2 警察部職員配置(現員)	3
3 警察官吏年齡	4
4 警察官吏勤慣年數	4
5 警部補巡查俸給	5
6 警察官異動	5
7 警部補、巡查恩給及遺家族扶助料	6
8 巡查採用及教習	6
9 警察上ノ賞與	7
10 警察共濟組合救濟金	7
11 警察上死傷者	8
12 警察電話	8
13 諸犯罪別發生件數	9
14 諸犯罪發生及檢舉件數	9
15 諸犯罪別檢舉件數	10
16 違警罪即決處分及正式裁判數	10
17 未成年者喫煙竝飲酒禁止法違反	11
18 自殺者	11
19 年齢ニ分テタル自殺者	12
20 原因ニ分テタル自殺者	12
21 被殺傷者	13
22 警察指紋採取成績	13
23 取締營業者數	14
24 行政執行處分	14
25 火 災	15
26 火災原因	16
27 消 防 組	16
28 交通事故ノ一(汽車ノ加害)	17
29 交通事故ノ二(電車ノ加害)	18
30 交通事故ノ三(自動車ノ加害)	18
31 交通事故ノ四(自轉車ノ加害)	19
32 交通事故ノ五(其ノ他ノ加害)	19
33 狩獵免許下附人員	20
34 鳥獸捕獲數	20
35 貸座敷及藝娼妓數	21

衛 生

36 醫 師	21
37 齒科醫師	22
38 藥 劑 師	22

39 藥局及藥業者	23
40 賣 藥	23
41 鍼灸按摩及接骨業者	24
42 看 護 婦	25
43 產婆、看護婦、理髮試驗	25
44 產 婆	25
45 鍼灸、灸術、按摩術試驗	26
46 トラホーム檢診成績	26
47 トラホーム患者	27
48 結核健康診斷成績	27
49 傳染病患者、死亡	28
50 傳染病患者、死亡年齡別	28
51 娼妓健康診斷其ノ一	29
52 娼妓健康診斷其ノ二	29
53 花柳病患者	30
54 屠 殺	31
55 中 毒	32
56 衛生試驗	32
57 病 院 其ノ一	33
58 病 院 其ノ二	34
59 病院患者病類別	35
60 傳染病院及隔離病舎	36
61 病院ニ非ザル診療所	36
62 藥品巡視成績	37
63 種痘成績ノ一(第一期)	37
64 種痘成績ノ二(第二期)	38
65 娼妓病院	38
66 衛生ニ關スル諸犯罪處分別	39
67 乳幼兒死亡	40
68 結核性疾患死亡全國對照表	40
69 總死亡ト結核死亡トノ比較	41
70 マラリヤ患者年齡別	41
71 マラリヤ治療方法別	42
72 精神病者	42
73 牛 乳 (其ノ一)	43
74 牛 乳 (其ノ二)	43

工 場

75 工場臨檢調	44
76 適用工場數年次比較	45
77 警察署別適用工場數	46
78 警察署別適用工場職工數	48

79 常時職工十人未滿使用ノ危険及衛生上有害ナル工場並
職工數.....50

80 寄宿舍ノ設ケル工場及職工數.....50

81 職工扶助金額調.....51

82 工場主ノ管理スル職工貯蓄金額.....51

83 工場災害調.....52

84 工場法違反.....54

85 原 動 機 關.....54

86 労働者災害扶助法適用事業數.....55

87 労働者災害扶助法適用事業ニ於ケル労働者數.....56

健 康 保 險

88 工場、事業場、事 及保險者數.....57

89 業態別工場、事業場、事業及被保險者數.....57

90 保 險 給 付.....58

91 標準報酬等級別被保險者數.....58

92 郡市別大中小工場分布狀況.....59

93 病類別療養並傷病手當ノ件數及日數(業務上).....59

94 病類別療養並傷病手當ノ件數及日數(業務外).....60

95 原因別死亡者數.....61

雜

66 新聞及雜誌.....62

總

說

警 察

警 察 區 劃

昭和十一年末現在ニ於ケル縣警察行政區劃ハ其ノ監督廳タル警察部ノ下ニ警察署十三、警部補派出所三、巡查部長派出所十六、巡查派出所二十三、巡查駐在所百五十九ヲ置キ、一市百七十二箇町村ノ警察事務ヲ管理セシメ以テ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ縣民ノ福祉増進ニ努メツ、アリ

警 察 官 吏

昭和十一年末現在ニ於ケル警察官吏ノ定員ハ警察部長一人、警視四人、警部二十四人、警部補三十六人、巡查部長七十一人、巡查四百三十八人ニシテ昭和十二年四月一日巡查定員ヲ四百四十四人（六名増加）ニ改正ス

火 災

昭和十一年中ノ火災度數ハ276件、内失火ハ252件、放火18件其ノ他6件ニシテ其ノ損失見積額ハ1,039,681圓ナリ。之ヲ原因別ニ見レバ炬燵行火ノ不始末51件、取灰ノ不始末25件、煙突、火鉢ノ不始末各々15件、小兒弄火及竈ノ不始末各々13件等ハ其ノ主ナルモノナリ。

消 防 組

昭和十一年中ノ消防組ハ171組、人員19,625人ヲ以テ組織ス。而シテ之等消防組ニ備付ケラレタル重要機械器具ハ自動車唧筒25臺、オートバイ唧筒5臺、ガソリン唧筒221臺、蒸汽唧筒99臺、腕用唧筒685件 臺ナリ。

犯 罪

昭和十一年中ニ於ケル犯罪發生件數ハ11,317件ニシテ檢舉件數ハ11,130件ナリ。之ガ檢舉率ハ98%強ヲ示シ其ノ中縣外事件檢舉416件アリ、尙縣内事件ノ未檢舉件數ハ603ニシテ前年ニ比シ發生件數ニ於テ1,113件、檢舉件數ニ於テ1,733件ノ減少ヲ示セリ。

衛 生

醫 師

昭和十一年末現在ニ於ケル醫師ノ總數ハ四百六十一人（内女醫十九人）ニシテ醫師一人ニ對シ現在人口千四百〇三人ニ當レリ。

而シテ之ガ分布狀況ヲ觀ルモ福井市百三十七人、坂井郡六〇九人、今立郡四十六人、大野郡三十八人、敦賀郡三十三人ハ多キ地方ニ屬シ、大飯郡五人最モ少シ。

之レヲ經歷別ニ觀レバ大學卒業百四十一人（三割二分六厘）官公私立專門學校卒業二百四十二人（五割二分五厘）試験及第七十一人（一割五分四厘）其ノ他七人（一分五厘）ナリ。

齒 科 醫 師

昭和十一年末現在ニ於ケル齒科醫師ノ總數ハ百二十四人（内女齒科醫師九人）ニシテ前年ニ比シ十一人ヲ増加セリ。其ノ經歷ハ官公私立專門學校及外國學校卒業者ヲ併セ八十三人、試験及第四十一人ナリ。

ト ラ ホ ー ム 檢 診

昭和十一年年中ニ於ケル「ト ラ ホ ー ム」檢診人員ハ七萬四千百四十八人ニシテ内患者ト決定セル人員ハ七千三百七十六人ナリ。

而シテ檢診人員百ニ對スル患者ハ九人九五（前年度九人〇三）ノ割合ナリ。患者ト決定セル人員中重症五百二十四人（七分一厘）輕症四千五百四十五人（六割一分六厘）疑傷症二千三百七人（三割一分三厘）ナリ。

傳 染 病 患 者

昭和十一年ニ於ケル傳染病患者數ハ三百三十一人ニシテ前年ヨリ七十三人増加セリ。而シテ「腸チフス」最モ多ク百四十九人（四割五分）ヲ占メ「ヂフテリア」六十六人（一割九分九厘）之ニ亞キ赤痢五十三人（一割六分）、「バラチフス」三十三人（一割）、猩紅熱二十九人（八分八厘）流行性腦脊髄膜炎一人（三厘）ナリ。

又各患者百人中死亡者ノ割合ヲ觀レバ次ノ如シ。

赤 痢	283	腸 チ フ ス	181
バラチフス	121	猩 紅 熱	68
ヂフテリア	168	流行性腦脊髄膜炎	1,000

花 柳 病 患 者

昭和十一年中病院又ハ開業醫ニ於テ取扱ヒタル花柳病患者ハ一萬二千四百三十二人ニシテ内男八千八百八十八人（六割五分）、四千三百四十四人（三割五分）ナリ。之ヲ前年ニ比スレバ男四百六十八人（五割四厘）減少シ、女三十人（七厘）ヲ増加シ總數ニ於テ四百三十八人（三分四厘）ヲ減少セリ。

病 院

昭和十一年末現在病院數ハ十八ニシテ年内患者總人員ハ八萬九千九百五十人（結核療養所ヲ含ム）ナリ。

之ヲ前年ニ比スルニ病院數二、患者總人員一萬四十九人ヲ増加セリ。而シテ之ガ患者ヲ病類別ニ觀レバ神經系及五管病二萬四千三百五十人（二割七分一厘）最モ多ク呼吸器病一萬六千五百六十六人（一割七分八厘）、消化器病一萬四千五百十八人（一割六分二厘）、泌尿及生殖器病一萬一千八百八十六人（一割二分四厘）ヲ主ナルモノトス。而シテ呼吸器病ノ内二千七百五十人ハ肺炎患者ナリ。

工 場 及 職 工 數

昭和十一年十月一日現在ニ於ケル本縣工場法適用工場數ハ三千七十二其ノ職工數五萬七千九百九十四人ニシテ前年ト比較スレバ工場數ニ於テ二百十八、職工數ニ於テ四千九百九十二人ノ増加ヲ示シ逐年増加ノ一途ヲ辿リツ、アリ、而カモ其ノ増加工場二百十八ノ内二百四工場ハ染織工場ニシテ實ニ本縣特種產業タル纖維工業ノ躍進振リヲ知實ニ示スモノアリ。尙縣下人口ニ對スル職工密度ヲ見ルルキハ本年ヨリモ少カリシ昨年ノ職工數ト比較スレバ（昭和十年國勢調査ニ依ル）全人口ノ8%ハ工場労働者ナリ之ヲ全府縣ノ狀況ト比較スルトキハ本縣ハ人口ニ對スル工場労働者ノ密度ニ於テ公國第一位ナリ。即チ第二位ハ大阪府、7.5%第三位ハ愛知縣ノ7.4%ノ順

總

說

位ナリ之ヲ以テ見ルモ本縣工業ノ如何ニ旺盛ナルカヲ察知スベシ。

昭和十年國勢調査人口	昭和十年職工數
646,659	52,202

寄 宿 舍

昭和十一年十月一日現在ニ於ケル寄宿職工ヲ有スル工場數ハ五百五工場ニシテ其ノ寄宿舍ニ收容スル職工數ハ一萬三千五百七十一人ニシテ前年ニ比較スルトキハ工場ニ於テ四十寄宿職工ニ於テ二千五百三十四人ノ増加ナリ此ノ増加ハ工業進展ニ依ル縣外職工ノ流入ヲ示スモノナルガ寄宿舍設備ニ於テモ漸年改善セラレツ、アリ。

工 場 災 害

昭和十一年中ニ於ケル工場災害中工場ノ死傷總數ハ二百七十人ニシテ内死亡五人ナリ。之ヲ前年ト比較スルニ總數ニ於テ四十九人ノ増加ヲ示シ單ニ死亡ノミテ見ルトキハ四人ノ増加ヲ示スハ産業振興上誠ニ憂フベキ現象ナリ。

職 工 貯 蓄 金

昭和十一年十月一日現在ニ於ケル職工貯蓄金ハ二十四萬八千二百四十六圓ニシテ内郵便貯金六萬七百七十八圓、銀行預金四萬八千六百二十圓、工場預金十三萬八千二百二十圓、其ノ他七百二十八圓ナリ。

而シテ之ヲ前年ニ比スレバ十七萬二千三百九十圓ノ減少ニシテ尙之ガ貯蓄金ヲ管理スル工場ハ七十一工場ニシテ貯蓄職工ハ七千七百六十五人ナリ。

勞働者災害扶助適用事業及勞働者

昭和十一年中勞働者災害扶助法適用事業總數ハ百六十二ニシテ前年ニ比シ二十八ノ減少ナリ。尙適用事業數ヲ事業別ニ見レバ、土石砂鑛採取業三十八土木建築工事六十五、交通運輸業四十二、貨物積卸ノ事業十七ナリ。而シテ之ガ使用勞働者數ハ五千五百五十八人ニシテ(内女 400人)前年ニ比シ八百四十二人ノ減少ナリ。

尙勞働者數ヲ事業別ニ見レバ土石砂鑛採取業三百九十二人、土木建築工事二千八百七十六人、交通運輸業八百七十四人、貨物積卸事業一千十六人ナリ。

原 動 機

昭和十一年末ニ於ケル工場及原動機取締規則ニ依ル取締原動機ハ總數一萬四百三十八、總馬力六萬一千四百六十七馬力ニシテ之ヲ前年ニ比較スルニ原動機ノ一千三十四個馬力ニ於テ三千三百六十三馬力ノ増加ナリ。

健 康 保 險

被 保 險 者

昭和十一年度末ニ管内政府管掌健康保險被保險者ノ總數ハ四萬五千二百五人ニシテ本年度中新ニ雇入レ、其ノ他ノ原因ニ依リ資格取得(増加)セルモノ二萬四千六百十九人ニシテ解雇其ノ他ノ原因ニ依リ資格喪失(減少)セルモノ二萬四千四十二名ニシテ差引前年度ニ比シ三千五百七十七人ヲ増加セリ。

工場事業場及事業數

昭和十一年度末ニ於ケル健康保險關係工場、事業場、事業ノ總數ハ二千二百六十八ニシテ前年度ニ比シ百八十五ヲ増加シタリ。

工場ノ大部分ヲ占ムルハ染色工場ノ千七百八十六ニシテ總數ノ七割九分ニ相當シ此ノ被保險者四萬二千四十五人、總數ノ八割九分ニシテ大部分ヲ占ム。最モ僅少ナルハ特別工場ノ二十二、被保險者百五人ナリ。鑛業法適用事業場ハ金屬山十七石炭山一アリ。

此ノ被保險者ノ總數ハ三百四十一人ニシテ任意包括被保險者ヲ使用スル事業ハ十アルノミナリ。

標 準 報 酬

被保險者ノ報酬月額ニ依ル標準報酬等級ハ四級ノ者(日額五十五錢以上六十五錢未満)最高峰ヲ行キ一萬六千六百六十人ニシテ總數ノ二割二分、以下三級、五級、七級、六級ノ略兩翼的ニ順次低下シ、夫々總數ノ二割一分、一割七分、一割一分、一割ニ相當シ、十五級、十六級ニ至リテハ一名宛ニ過ギズ。

而シテ之ガ平均日額ハ男八十七錢五厘、女六十錢九厘ニシテ男女總平均日額ハ六十九錢一厘ニ當リ、前年度末ニ比シ一錢三厘方高騰セリ。

保 健 給 付

昭和十一年度中ニ於ケル保險給付ノ總件數ハ十五萬千七百七十八件ニシテ之ニ要シタル費用中、本廳拂ノ分ノミニテハ十八萬千六百七十七圓アリ、(外ニ政府直接支拂ニ係ル醫療費本縣分三十二萬二千四百五十七圓アリ)傷病並ニ死亡關係給付ハ被保險者ノ増加ニ伴ヒ遞増セルガ分挽關係ニ在リテハ却ツテ前年度ヨリハ減少スルノ現象ヲ呈セリ。療養給付中最多モ多キモノハ感冒ノ一萬七千六百七十件ニシテ以下胃カタルノ一萬五千八百七十九件、腸カタル及下痢一萬一千四百七十九件、眼及附屬器ノ疾患一萬二千二百二十二件、急性氣管支炎ノ九千六十七件ノ順位ニシテ總數十三萬二千八百二十二件、前年度ニ比シテ一萬九百八十四件ヲ増加シタリ。

此ノ療養日數ハ百四十八萬二千九百三十四日ニ達ス。埋葬料(費)支給件數ハ五百二十七件ニシテ前年度ヨリ九十二件増加シ、中最多キハ肺結核ノ百三十三件ニシテ以下肺炎五十五件、消化器ノ疾患五十二件、等ハ主ナルモノトス。